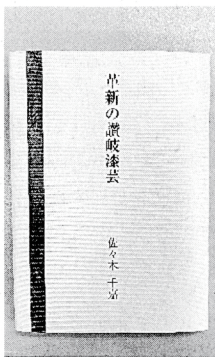


## V 新刊紹介

★「革新の讃岐漆芸」佐々木千嘉著  
 さぬき市出身で金城大短期大学部  
 非常勤講師の著者が、2019年度  
 に発表した金沢美術工芸大学院の  
 博士學位申請論文を加筆修正。現代  
 の讃岐漆芸は江戸時代後期に玉椿象  
 谷(1806〜69年)が創始したも  
 のとは性質が異なるとし、革新的な  
 技術と造形感覚による現代の讃岐漆  
 芸が確立された過程と要因を全5章  
 で考察している。



第1章では、香川が目すべき漆  
 器産地の一つとして考えられる歴史  
 的背景を紹介。1898(明治31)  
 年の県工芸学校(現県立工芸高校)  
 設立と、同校で実践された近代美術  
 教育が現代の讃岐漆芸に重要な役割  
 を果たしたとつづける。

県展開催や高松市立高松美術館  
 (現市美術館)の開館を例に、明治  
 末期から戦後の香川で豊かな芸術文

化が育まれたとも紹介している。

(美巧社・3080円)